

第2回 アルミ付き紙パック 回収チャレンジ キャンペーン報告

日本テトラパックのベルマーク運動



第2回 アルミ付き紙パック 回収チャレンジ キャンペーンを 実施しました。



キャンペーンの狙い

テトラパックは2011年4月からベルマーク運動に協賛し、今年で9年目を迎えました。この間、多くの幼稚園、保育園、学校などの団体にご参加いただきました。その中で、「日本テトラパックのベルマーク運動」は、紙パックを「開いて、洗って、乾かす」リサイクル形式のベルマーク運動として他に例がなく、「リサイクル意識の向上に役立つ」という評価をいただくことができました。その一方で、回収のための手順や方法などをもっとアピールする必要も感じました。そこで特にアルミ付き紙パックの回収について、より理解していただくことを狙いとして、昨年に引き続き今年も「アルミ付き紙パック回収チャレンジ」を実施しました。

キャンペーンの内容

日本テトラパックのベルマーク運動では、使用済みのテトラパックの紙パックを集めてお送りいただくと、その重量に応じてベルマークの点数となります。このキャンペーンでは集めた「アルミ付き紙パック」の重量により豪華賞品を用意しました。

テトラパックの紙パックには、内側が白い「アルミなし紙パック」と内側が銀色の「アルミ付き紙パック」があります。「アルミ付き紙パック」のベルマーク点数は「アルミなし紙パック」の2倍です。

アルミ付きは点数が2倍!!

ベルマークの点数を貯めやすいアルミ付き紙パックを
みんなで集めてね!



*
紙パックを開いたとき
内側が銀色

**
紙パックを開いたとき
内側が白色



たくさん ご参加ありがとう ございました!

アルパ回収チャレンジ賞

今回のキャンペーン期間中に集めた「アルミ付き紙パック」の重量などに応じて表彰し副賞を贈呈しました。

紙パックをリサイクル!
学校、ご家庭でご利用いただけるものを用意しました!



テトラパック君 回収ボックス

紙パックを再生した
ダンボールを
使用しています。



「リサイクルありがとう」 トイレトペーパー

「リサイクルありがとう」
ボックスティッシュ

紙パックを再生して
作られています。



書道半紙

ジグソーパズル

メモパッド

紙パックを再生して
作られています。

受賞30団体

- にしふじのみや幼稚園 (静岡県富士宮市)
- 文化幼稚園 (青森県弘前市)
- さくら保育園 (茨城県つくばみらい市)
- 光保育園 (熊本県上天草市)
- 公益財団法人 総合花巻病院こどものくに保育園 (岩手県花巻市)
- 二日市カトリック幼稚園 (福岡県太宰府市)

- 認定こども園 宮古泉幼稚園 (岩手県宮古市)
- 青森明の星短期大学附属幼稚園 (青森県青森市)
- かびら幼稚園 (埼玉県坂戸市)
- 和田保育園 (富山県高岡市)
- 茶山カトリック幼稚園 (福岡県福岡市)
- ももじま幼稚園 (愛知県津島市)
- 五個荘あじさい幼児園 (滋賀県東近江市)
- 東郷旭丘幼稚園 (愛知県東郷町)

- 黒田幼稚園 (三重県津市)
- 暁の星学園 鳴門聖母幼稚園 (徳島県鳴門市)
- 京都教育大学附属幼稚園 (京都府京都市)
- 中央幼稚園 (兵庫県相生市)
- 鎌倉市立稲村ヶ崎小学校 (神奈川県鎌倉市)
- 奈良市立柳生小学校 (奈良県奈良市)
- 旭小学校 (鹿児島県いちき串木野市)
- 登美丘西小学校 (大阪府堺市)

- 日向市立富高小学校 (宮崎県日向市)
- 豊後大野市立三重第一小学校 (大分県豊後大野市)
- 札幌市立有明小学校 (北海道札幌市)
- 葉山町立葉山小学校 (神奈川県葉山町)
- 倉敷市立児島小学校 (岡山県倉敷市)
- 熊本市立出水南中学校 (熊本県熊本市)
- 学校法人おかやま希望学園 (岡山県吉備中央町)
- 女子聖学院中学校・高等学校 (東京都北区)



受賞園インタビュー

学校法人土橋学園
にしふじのみや幼稚園

創立年:1954年/園児数:71人(2019年12月現在)

富士山のお膝もと、静岡県富士宮市にある幼稚園。理事長の佐野允之先生による「思いやる心」「丈夫な体」「考える力」という3つの理念のもと、年少・年中・年長各1学級というアットホームな編成を大切にしています。5年前からテトラパックの紙パック回収をはじめ、昨年、第1回「アルミ付き紙パック回収チャレンジ」キャンペーンにも参加し、みごと受賞。地域の方々や保護者の理解と協力を得ながら、さまざまなリサイクル活動を行っています。

今年も園児たちと一緒に楽しみながらがんばりました



にしふじのみや幼稚園でテトラパックの紙パック回収を始めたのは、矢部恵理子先生が園長に就いた5年前。PTAの会合でテトラパックの紙パック回収がベルマークの点数になることを知り、園児たちのために集めてみようと思ったことがきっかけでした。保護者には園だよりや集会の際などに説明を重ね、徐々に浸透していきました。「アイスクリーム屋さん」に勤めていた保護者の方がいらして、アルミ付き紙パックを持ってきてくださいます。お店は嵩る紙パックを捨てずに済み、園ではベルマークに活用できて、お互いによかったんです。」と話すのは、主任の松永礼先生。現在では、その保護者の方が独立して開店したケーキ屋さんからもアルミ付き紙パックが届くそうです。当初はお店で開いてもらっていましたが、量も多く、作業が大変なため、中を洗っただけの状態です。先生と園児とで協力して開くようになりました。

アルミ付き紙パックが届くと、先生方は時間を見つけてカッターで切り込みを入れ、貯めておきます。数がまとまったところで、園児たちを集めて開いていきます。「子どもたちは指の力を使ってキュッキュッと開いていきます。小さいうちは指先の力が弱いので、これをやることで指先の運動にもなるかなと思っています」と園長の矢部先生は話します。「リサイクル」という言葉を理解するのはまだ難しくても、みんなががんばって紙パックを開いた結果、園で使える鉄棒が購入できたということを園児たちは理解しています。「次はこれを買ってあげたい」その目標が先生方のモチベーションに繋がっています。



アイスクリーム屋さんから

アイスクリーム屋さんからいただくアルミ付き紙パック。夏場にはこれが何袋も届きます。



ありがとうございました！

感謝状とテトラパック君のぬいぐるみを手渡すと、園児から「ありがとうございました！」と元気な声が上がりました。



左下…松永礼主任先生

これからもリサイクル、がんばります！



鉄棒2台購入



廊下に置いてます



ベルマークで集めた点数で購入した折りたたみ式の鉄棒が2台。次は何を購入してあげようかと先生方の間でも盛り上がっているそう。

教室でも工作で残った紙などは専用の資源回収箱に入れるという分別を行っています。

エントランスを入った廊下に置いてあるテトラパック君の回収ボックス。登園時などに園児や保護者が紙パックを入れてくれます。

先生の掛け声でエントランスに集合
遊び感覚で親しむ、幼稚園ならではのリサイクル活動



10枚集めて先生に！



楽しく開きます



1箱で10kg分！

取材当日、年長さんクラスが実際にアルミ付き紙パックを開く様子を見せてくれました。先生方がカッターを使って切り込みを入れると、競争するようにアルミ付き紙パックを手に取ります。「あっ、りんご！」とリンゴジュースのアルミ付き紙パックだけを集めたり、「私、抹茶が好き!」、「チョコレートのにおいがする」と、とにかく楽しそうに開いていく園児たち。10枚を数えながら重ねたら、先生に渡します。「箱に入れるには、子どもたちが重ねたものを私たちが平らにして箱に入れるんですが、それを真似して“開く工場”と“まっすぐ工場”と“入れる工場”と役割を分けたりして、遊びながらやってくれるんです」と話す主任の松永先生。ほんの10分足らずであっという間に1箱10kg分が完成しました。



受賞校インタビュー

おかやま希望学園

創立年：吉備高原のびのび小学校 1995年、吉備高原希望中学校 2000年
児童・生徒数：35人(2019年11月現在)

岡山県のほぼ中央、豊かな自然が広がる吉備高原にある小・中併設の全寮制の学園。ベルマーク運動は中学生が主体となって2013年からスタートしました。以後2019年までの6年間、獲得した点数は学校の備品購入ではなく、復興支援に充てています。児童・生徒数の少ない小さな学校ですが、保護者や地域の協力もあり、「アルミ付き紙パック回収チャレンジキャンペーン」では2年連続受賞校に選ばれました。

被災地支援を目的に生徒主導で活動を継続



おかやま希望学園では、「音楽と命」をテーマにした中学校のクラス「Life マイスター学級」の発案でベルマーク運動への参加が始まりました。きっかけは、2011年に発生した東日本大震災。「被災地のために何かできることはないか」という子どもたちの想いが、ベルマーク預金で寄付するという活動に結びつきました。活動をバックアップしてきた島中洋行先生、高田咲希先生、天野真吾先生によると、当初はベルマークのみを収集していましたが、やがて給食で提供される野菜ジュースのアルミ付き紙パックも対象だとわかり、すぐに回収を始めたそうです。「野菜ジュースは2週間に1回提供され、食事の前に担当の生徒がストローやストロー袋をはずすこと、紙パックをたたむことなどを説明します。開いて洗って乾かす作業は、担当の生徒が放課後に実施。教職員の分も合わせると50個ほどになりますが、アルミ付きは点数が高いので、子どもたちも意欲的に取り組んでいます」(島中先生)。

保護者や地域の方々から持ち込まれるベルマークや紙パックも大きな力になっています。「Life マイスター学級」では、授業の一環として地元の介護福祉施設や保育園などで定期的にコンサートを開催。そこで活動の趣旨や対象の紙パックについて説明し、周知を行ってきました。「地域の皆さんの協力を得るため、なぜ自分たちがベルマーク運動に参加しているのか、収集した紙パックがどのような役目を果たすのかをわかりやすく説明する。これも子どもたちの学習につながっています。点数の集計も含めてほぼすべての作業を生徒が行っており、ベルマーク運動に関わる一連の活動は、当校の指導方針の一つである『自己決定』にも大いに役立っていると思います」と天野先生。生徒からも「冬に冷たい水で洗うのは大変だけど、箱が満杯になると達成感を感じる」といった声もあり、今後も年間1万点を目標に活動を続けていきたいそうです。



開く 保護者から持ち込まれたアルミ付き紙パックを生徒が手際よく切って開いていきます。
洗う 開いた紙パックをていねいに水洗い。この日は生徒4人で作業を行いました。

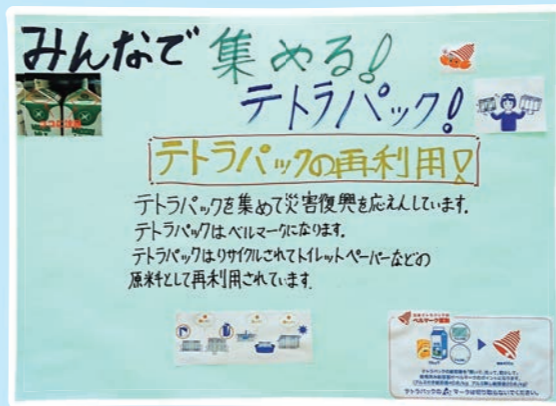
乾かす 洗った紙パックは新聞紙の上に並べて1日かけて乾燥させます。

回収 乾燥させた紙パックはすみやかに回収箱へ。発送前の箱詰め作業も生徒が自ら行います。



卒業生の説明書 給食で提供される野菜ジュースのアルミ付き紙パックは、食後の片付け時に児童・生徒が専用の袋へ。近くには卒業生が作った紙パックのたたみ方の説明書も置かれています。

ベルマーク運動で復興支援 被災地に思いを寄せ、 災害を風化させない活動を



テトラパックの紙パックを収集する目的や再利用について紹介した手作りポスター。

ベルマーク運動では、備品などの買い物だけでなく、災害で被災した学校への支援も可能です。おかやま希望学園のある岡山県では、2018年7月

に西日本豪雨が発生。学校の被災は免れたものの、生徒たちにとっては災害への備えや復興支援について改めて考える出来事になったそうです。「ベルマーク活動のきっかけになった東日本大震災の後にも、熊本や北海道で大規模な地震があり、そのたびに被災地の方々に想いを寄せてきました。西日本豪雨では身近な場所で甚大な被害が発生したことで、生徒たちも支援の意義や大切さをより強く実感したようです」と天野先生。今年度は、テトラパックの紙パック回収の目的を紹介したポスターを校内に掲出したり、学校の花壇に災害にまつわる花文字を作ったりと、ベルマーク活動を通して災害の記憶を風化させない取り組みも行われています。



東日本大震災が発生した日付「3.11」を描いた花文字。



担当の生徒に、キャンペーン参加の感謝状とテトラパック君のぬいぐるみを贈呈。

リサイクルできる 「アルミ付き 紙パック」



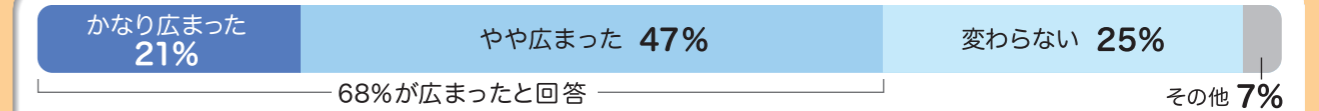
キャンペーン参加団体総数は257、アンケートにご回答くださった団体は76でした。(回答率29.5%)

昨年に引き続き開催した「アルミ付き紙パック回収チャレンジ」キャンペーンは、今年は全国から257団体にご参加いただきました。キャンペーンに関するアンケート調査の結果、「アルミ付き紙パック」がリサイクルできるという認識が広がったことがわかりました。アンケートにご回答いただいた団体の皆さまには、心よりお礼申し上げます。



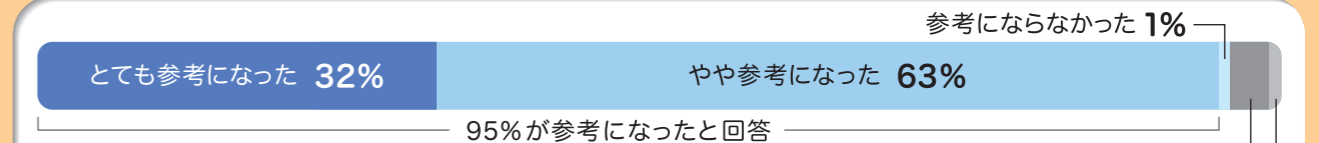
アンケートへのご協力ありがとうございました！

Q1 キャンペーンに参加することによって、保護者や児童・生徒の間で「アルミ付き紙パックはリサイクルできる」という認識は広まりましたか？



「アルミ付き紙パック回収チャレンジキャンペーンへの参加は2回目」「以前からアルミ付きを集めている」という団体も多く、「アルミ付き紙パックはリサイクルできる」という認識は広がってきていると考えられます。

Q2 キャンペーンエントリーシートに記載された集め方の事例は参考になりましたか？



他の団体の集める工夫を参考に、ご自身の園、学校に合った方法を考えて取り組んでいただいたようです。他の団体の工夫をさらに参考にしたいというご意見もいただきました。

n=76



集める工夫を ご紹介します！

キャンペーンのアンケートでは、アルミ付き紙パックの集め方の事例についてお尋ねしました。参加する人の輪を広げるための工夫を教えてくださいましたので、ご紹介します。



工夫1 積極的に告知する

- 毎月10日を「リサイクルデー」として、缶類などとともにアルミ付き紙パックを集めている。

工夫2 実物のパックを提示

- 保護者・生徒向けのベルマーク通信に商品の実物写真を掲載。
- 回収のお知らせに商品の写真を載せ、回収箱の近くに実物を置いた。

工夫3 地域と連携する

- 幼稚園周辺の施設や飲食店などに協力していただいた。
- 町内のファーストフード店に協力してもらった。

- 地域のお店にも協力していただき、テトラパック回収ボックスを設置した。
- 病院、地域会館、幼稚園などにも呼びかけて、回収箱なども設置させていただいた。

工夫4 アルミ付き紙パック入り飲料を積極的に利用

- 給食に出るオレンジジュースの容器を捨てずに、隣接している幼稚園にもお願いして幼稚園の分も回収。
- 運動会で全校生徒、教職員にジュースを配布し、終了後に容器を回収。
- 給食に1~2週に1度ほどテトラパックの容器入りジュースを出している。
- 夏場の学校給食にアルミ付き紙パック入りジュースが出る。全校生徒がクラスごとに容器を乾かし、PTAが回収している。



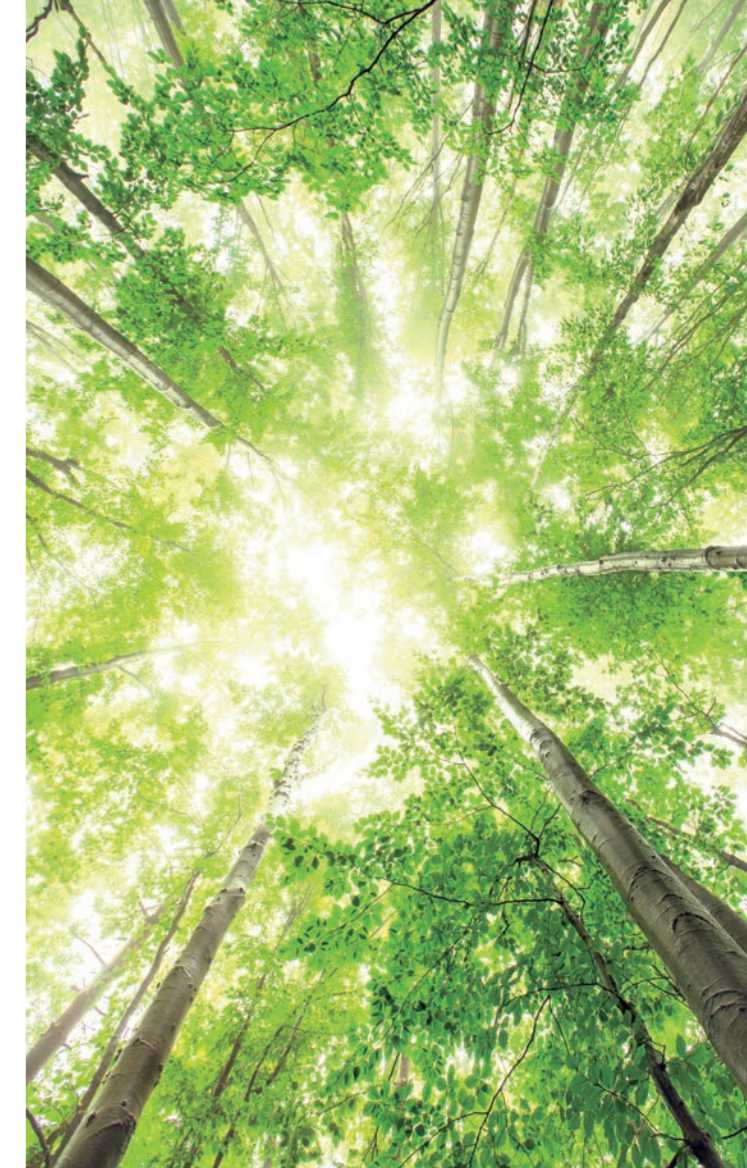
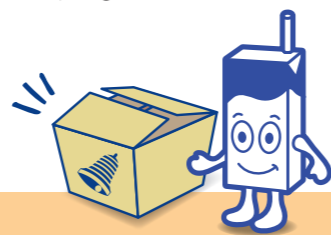
工夫5 イベントで盛り上げる

- ボランティア委員の児童から「クラス対抗にして集めてもらおう」と提案があり、ポスターと資料をクラスごとに提示。
- 学年別で枚数を集計しランキングを出して、お昼の放送で発表し意識を高めた。

工夫6 気づいてもらう

- PTAの全委員会が集まる常任理事会や保護者会でキャンペーンをチラシや実物を見せながらお知らせした。
- 園のイベントで使ったテトラパックのジュースをその場で回収することによって、「これもそうだったんだ!」と気づいてもらうきっかけになった。

日本テトラパックのベルマーク運動は、 社会貢献と環境活動の2本立てです。



ベルマーク運動とは？

「すべての子どもに等しく、
豊かな環境のなかで教育を
受けさせたい」



という願いを込めて、ベルマーク運動は1960年に始まった社会貢献活動です。協賛会社の商品についているベルマークを学校などの登録団体で集め、ベルマーク教育助成財団に送付することで、団体ごとのベルマーク口座に点数がたまります。この点数が1点1円で換算され、学校の備品や教材などを購入することができます。また、同時にその購入代金の1割相当分が、商品を販売した協力会社からベルマーク財団に寄付され、特別支援学校(養護学校、盲学校、聾学校など)や途上国の子どもたちのために使われています。

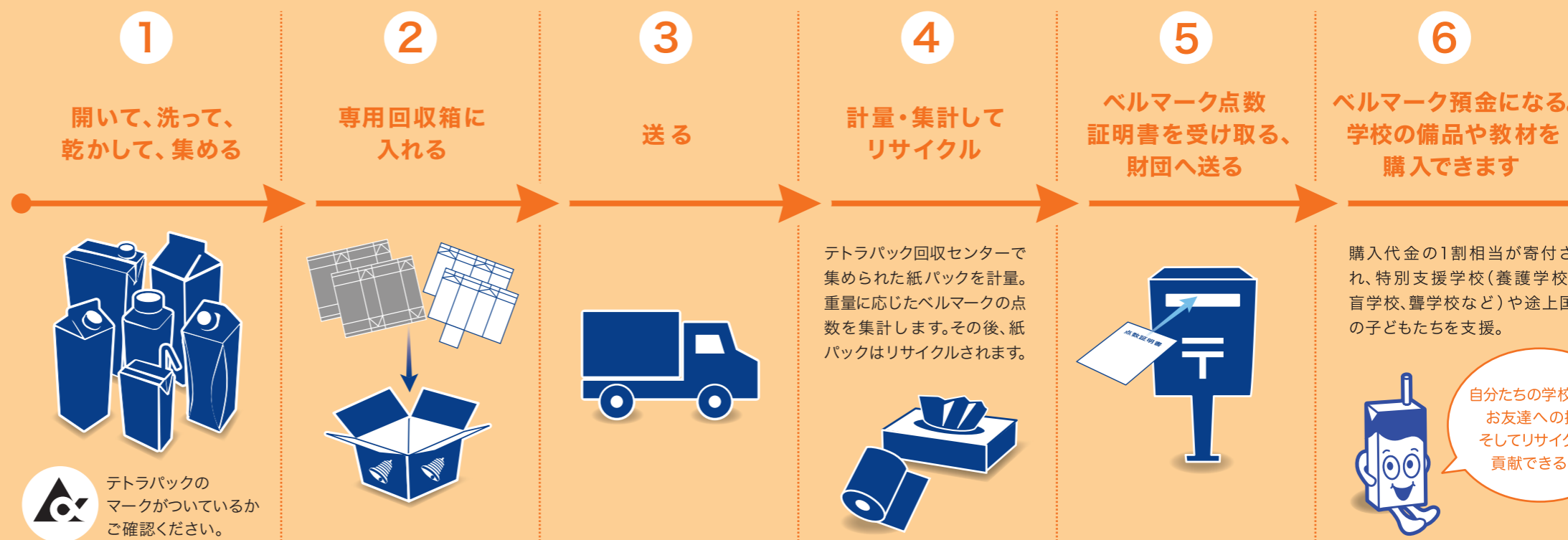
社会貢献も、環境活動も。

日本テトラパックのベルマーク運動は、ベルマークを切り取るのではなく、テトラパックの紙パックそのものを、「開いて、洗って、乾かして」送るというやり方です。飲み終わった後の牛乳やジュースの紙パックを集め、テトラパック回収センターに送るとその重量に応じて点数がたまります。このように紙パックのリサイクルにも役立つ活動になる日本テトラパックのベルマーク運動は、従来からベルマーク運動が果たしてきた社会貢献に加え、環境意識の向上と実践にもつながることが大きな特徴となっています。

日本テトラパックの ベルマーク運動の しくみ

集めていただいた
テトラパックの紙パックは
すべて有効活用されています。

紙パックに使用されている紙は、長くて丈夫な紙繊維でできており、トイレトペーパーなどの原料となります。残りのポリエチレンやアルミ箔の部分は、再生紙製造に必要な熱エネルギーとして有効活用されます。



テトラパックの
マークがついているか
ご確認ください。



自分たちの学校づくり
お友達への援助
そしてリサイクルに
貢献できるね!

日本テトラパック株式会社

お問い合わせ 日本テトラパックのベルマーク運動受付センター

TEL.0545-30-6690 受付時間/平日 10:00～16:00



Tetra Pak,  PROTECTS WHAT'S GOOD, テトラパック、「大切なものを包んでいます」は、テトラパック・グループに帰属する商標です。
www.tetrapak.com/jp

 Tetra Pak®